



日本遺産
JAPAN HERITAGE
糸都物語

由木中央小



令和8年7月17日
学校だより 第5号
八王子市立由木中央小学校

教育目標 「すすんで学習をしよう」「あったかい心をもとう」「じょうぶな体をつくろう」

HP アドレス <https://hachioji-school.ed.jp/yugce/> 校長 松山 大作

親子の絆を深める夏休みに

校長 松山 大作

本日、無事に1学期の終業式を迎えることができました。保護者や地域の皆様の温かいご理解と見守りに支えられ、安心して教育活動を推進できましたことに、厚く御礼申し上げます。皆様と手を取り合い、共に歩んできた日々は大変心強く、子どもたちの豊かな学びを支える大きな原動力となりました。

今学期を振り返りますと、学校生活の様々な場面で子どもたちが見せてくれた、瑞々しい成長の姿が鮮やかに思い起こされます。4月の進級・入学当初に比べ、経験を重ねるごとにその表情や態度には、一回りも二回りもたくましさが増えました。何事にも一生懸命に挑戦し、友達と力を合わせてきた子どもたち。その確かな歩みとともに、無事に今日の一区切りを迎えられましたのは、ひとえにご家庭の深い愛情があったからこそと、深く感謝申し上げます。そして、そのように我が子を大切に育むがゆえに、日々の関わりの中で生じる葛藤や悩みを、学校へ打ち明けてくださる保護者の方も少なくありません。

先日もある保護者の方から「褒めることが大切だと分かっているけど、叱ってばかりでなかなか褒められない」という切実なお悩みを伺いました。「褒めなければ……」と思い詰めると、それがプレッシャーになり、余計にイライラしてしまうものです。そのような時は、無理に褒めようとしなくても構いません。お子さんの話をよく聴き、気持ちに共感する。それだけで十分です。「頑張っているのが伝わってくるよ」「あなたの笑顔を見ると元気になるわ」など、お子さんの気持ちや存在そのものを、まずは温かく認めてあげてください。その安心感が「自分は大切にされている」という自信になり、心の安定や、「もっと頑張ろう！」という自発的なやる気を引き出す何よりの栄養となります。

一方で、時には毅然と「叱る」ことも大切です。子どもたちは叱られる経験を通じて、社会のルールや大切な価値観を学びます。つい感情が高ぶって怒りをぶつけてしまうこともありますが、本来「叱る」とは、子どもの成長を願う行動です。「行動の理由」をまずは聴き、何がいけなかったのかを短く冷静に伝える。そうした「優しさと厳しさ」のバランスがあってこそ、子どもたちは安心して個性を伸ばしていくことができるのです。

いよいよ明日から、子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。学校を離れる長い休みだからこそ、普段は見落としがちな「お子さんの存在そのもの」を認める絶好の機会です。ぜひ、ご家庭でじっくり話を聴き、気持ちに共感してあげてください。そこから生まれる確かな絆と安心感が、夏休みの主体的な挑戦や健やかな成長を大きく後押ししてくれるはずです。ご家族そろって笑顔あふれる思い出を豊かに重ねられ、実り多き充実した時間を過ごされますよう、心より願っております。

校内別室指導支援員について

今年度から、校内別室指導支援員を配置いたしました。登校に不安がある児童については、学校へご相談いただければ、必要に応じて支援員によるサポートにつながることができます。